



今年(2023年)は1983年日本海中部地震から40年目の節目にあたる。40年は短いようで長いものであり、地震当時に問題とされたことに対する知見・技術は格段に進歩している。本講演会ではこの40年を振り返り、当時弘前大学が学界に寄与した事項を中心に、その後の防災科学・防災技術の進歩を紹介頂く。特にこの地震災害をきっかけに社会科学分野の多くの研究者が災害研究をおこなうようになった。その母体として弘前大学があった。当時の様子を知り、さらに防災研究の最前線で長年にわたって活躍されていた林春男先生に基調講演を頂く。過去を振り返り、現況を知る事は防災リテラシーを高めることにつながる。この機会を将来にそなえるきっかけとしたい。

日本海 中部地震から 40年 防災科学の進歩

令和5年7月18日(火) 15:00~18:00

弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール

講演者

- 林 春男 (京都大学名誉教授・防災科学技術研究所前理事長)
『日本海中部地震からの40年間の防災科学の歩みをふりかえる』
- 前田拓人 (弘前大学大学院理工学研究科教授)
『地震と津波の観測:あのころ、いま、そしてこれから』
- 梅田浩司 (弘前大学大学院理工学研究科教授)
『地層中に残された歴史時代の津波の記録』
- 森 洋 (弘前大学農学生命科学部教授)
『地震による土構造物の破壊挙動予測』

デザイン: 孫 曉儀(地域社会研究科1年)